

1 現状認識

◆富山の魅力と特徴

全国的にも「住みよい」地域として評価

◆人口減少

総人口↓ (若年人口↓ 生産年齢人口↓ 高齢人口↑)

- 医療など生活関連サービス確保困難
- 生活利便施設へのアクセス困難な高齢者急増

◆中心市街地

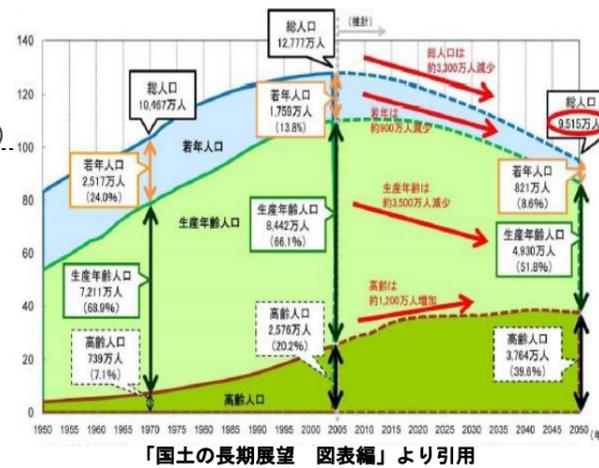
- ・高齢世帯の増加
- ・空き家、空き地等低未利用地増加
- …「都市のスポンジ化」
- ・コインパーキングの増加
- ・徒歩での買い物が困難に
- ・公共交通機関の利便性に濃淡

◆中山間地域

- ・人口流出、過疎化・高齢化
- ・高齢者の買い物・通院難民化
- ・採算の合わないコミュニティバス運行
- ・運転困難な高齢者の増加

◆郊外住宅地

- ・急速な人口増加
- ・低頻度なコミュニティバス
- ・ほとんど同じ世代が居住…将来一斉に進む高齢化
- ・郊外⇄郊外の移動不便
- ・便利な自家用車利用
- ・渋滞の深刻化



「国土の長期展望 図表編」より引用

2 現状を踏まえ私たちが考える課題

◎人口減少・高齢社会下において、何も策を講じないまま、人口の郊外への拡散が続き都市構造がさらに薄く広がり、車優先社会もこのまま続くなれば・・・

(2025年には、団塊世代が一斉に運転困難化するとともに…)

- ・まちや集落の魅力低下がますます進みさらに人口流出が続く
- ・店舗の撤退・廃業が相次ぐ
- ・車に頼れない人たちにとって住みにくい場所となる
- ・より遠くの拠点への移動を余儀なくされ、移動距離が長くなる
- ・渋滞が深刻化する
- ・地域全体のエネルギー消費が増えてしまう



郊外店舗付近の渋滞

- まち・集落の魅力を高めることで、こうした問題の進行を抑えられるのではないか。
- 徒歩圏内に身近な生活拠点となる場所があれば、暮らしやすさが実感できるのではないか。
- 公共交通の利便性を高め、車に頼らなくてもよいまちづくりができれば、日常生活を車なしで送ることができ、それに伴って排出ガスが削減され、地球温暖化抑制にもつながるのではないか。

3 自治体の取組みの現状

富山市 「コンパクトシティ」推進

鉄道駅周辺や幹線バス路線のバス停周辺といった複数ある拠点『お団子』を電車や幹線バス路線といった公共交通『串』で繋ぐ、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを目指している。

魚津市 鉄道駅の機能向上「ミラマルシェ」

魚津駅の空きスペースを活用して地場産品販売や休憩所・カフェ、学生の自習スペース等を整備、住民同士の交流拠点ともなっている。

◆環境先進国ドイツのまちづくり

- ・路面電車の鉄道乗り入れで利便性改善
- ・公共交通が都市内をきめ細かく網羅
- ・トランジットモールによる賑わい創出
- ・自家用車なしでも暮らしやすい都市設計
- ・歩行者最優先の住宅地
- ・断熱、採光リフォームの推進
- ⇒ ◎平日でも人であふれ賑わう中心商店街
- ◎郊外都市にも拠点が形成
- ◎積極的な市民参加によるまちづくり



富山市のコンパクトなまちづくり



魚津駅「ミラマルシェ」



鉄道路線も走る路面電車



人が最優先の住宅街

4 私たちからの提言

- ◎地域生活空間のあるまちへ
- ◎誰もが地域生活空間の主役となれるまちへ
- ◎人が最も優先される公的空間のあるまちへ
- 「将来も住み続けられるまち、住み続けたいまち」をめざす
- そのために…

- ①分散する拠点を結びつけ「拠点の複合化」・魅力付けを行い
- ②拠点間を結ぶ交通を充実させる (「鉄軌道王国とやま」の交通基盤も活用)
- 「テーマパークとアトラクション」をイメージしたまちづくり

住居から徒歩で歩ける範囲にその地区特有の拠点「小さな拠点」の設定  
Ex. 公民館、コンビニ、銀行、病院、スーパー、飲食店、企業、空き家の活用  
「小さな拠点」の魅力付け  
☆魚津駅「ミラマルシェ」のイメージ  
◆徒歩圏では、自転車、シニアカー、セグウェイなどが活躍

拡散している住民を集める

◆小さな範囲を高頻度に巡る「小さな交通」を利用  
乗りたい時にいつでものれる!

どの「小さな拠点」からも利便性の高い「大きな拠点」の設定  
Ex. 文化会館、図書館、ショッピングセンター、道の駅  
他の地域からも訪れたいくなる場所に!  
◆大きな拠点間は、路面電車の鉄道乗り入れなどで利便性確保

点在する地区を結びつける

こうしたまちづくりにより

- ⇒ 環境配慮型の交通の使用と移動距離の短縮化が図られ、エネルギー効率の向上と温室効果ガスの大きな削減に寄与。まちづくりだけでなく、環境面でも自分たちのまちに誇りをもてるように。
- ☆「将来も住み続けられるまち、住み続けたいまち」を実現
- まちづくりにより環境課題にアプローチ

“鉄軌道王国とやま”の特徴も活かしたまちづくりのイメージ 「テーマパークとアトラクション」をイメージしたまちづくり

